

小矢部市まちづくり研究会先進地視察研修概要

1 視察日時

平成20年11月28日（金）7：00～29日（土）17：30

2 視察先及び内容

【1日目】

- ①岐阜県郡上市（八幡地域）「郡上市役所」
・郡上八幡のまちなみや「郡上おどり」を活かしたまちづくりへの取り組み等について
- ② // （八幡地域）「郡上八幡のまちなみ」
・郡上八幡博覧館や郡上八幡のまちなみ見学
- ③ // （明宝地域）「株明宝レディース」
・特産品（トマトケチャップ）づくり等について
- ④ // （明宝地域）「道の駅 明宝」
・道の駅を活かしたまちづくりへの取り組み等について

<宿泊> 「ホテル郡上八幡」

【2日目】

- ⑤愛知県一宮市「138タワーパーク」
・タワーを活かしたまちづくりへの取り組み等について
- ⑥岐阜県郡上市（高鷲地域）クックラひるがの
・施設整備に至った経緯や施設の特色等について
- ⑦ // （高鷲地域）ひるがの高原「牧歌の里」
・施設整備に至った経緯や施設の特色等について

3 参加人数

・14名（第2期生（監事2名含む）18名中13名＋事務局1名）

「小矢部市まちづくり研究会（第2期生）先進地視察研修会報告書」

1班 氏名 義浦英昭

郡上八幡の概要や歴史などについて説明を受けるとともに、水の恵みや古い町並みを活かしたまちづくりについて興味深い話を聞くことが出来た。特にまちなみの保存に対する考え方がしっかりしていたことが印象に残りました。また、早い時期よりワークショップを取り入れるなど、地域の住民の意見を取り入れる事にも配慮しながらも、計画的まちづくりを進めているという印象を受けた。

三大盆踊りのひとつの郡上おどりについての説明では、郡上おどりの歴史や運営面での課題などについて伺ってみました。

質疑応答では、合併後の課題等について聞くことが出来ました。

視察への役所の対応が大変素晴らしかったという印象を受けた。小矢部市ではここまで出来るだろうか？と不安になった面もあり。

郡上八幡博覧館を見学すると共にまちなみ散策をしたが、雨のため観光案内人の話が上手く聞けなかったようです。観光気分で聞くことができた。

明宝レディースの概要・設立に至った経緯について説明を受けました。お金にならない規格外のトマトを使って何かできないかと考え出したのが、トマトケチャップ。ケチャップ専用の品種で作るのではなくあくまでも出荷できないトマトにこだわり、かつ手作りで作ることを考えたことが、現在に続いていることと思われる。

道の駅明宝の概要・特色について説明を受けた。特に野菜の直売所などについて、活発な意見交換が出来ました。

1日を終えて印象に残った場所は、ケチャップ作りの明宝レディースです。行政と市民が一緒になって活動を進めることが良かった。みんなで宴会をしながら一日の反省をし、いろんな意見交換が出来たこと。郡上おどりも覚えることが出来たことなど、有意義な時間を過ごすことが出来ました。感謝・感謝 事務局に

138 タワーの指定管理者である財団職員からの説明を聞いた。タワーにも搭乗しました。展望台も含めて施設全体で、リピーター確保にいろんな工夫が見られた。紙飛行機飛ばしも出来ました。我がクロスランドタワーにも参考となることがいくつもあったようです。お金をかけずに出来ることから実施すべし。

クックラひるがのでの昼食、運営している会社の支配人からのお話を聞きました。物と情報があふれる地域づくりをめざして、若い世代のリーダーを育成していこうという熱意が伝わりました。

ひるがの高原「牧歌の里」シーズンオフ期間であるにもかかわらず社長さん自らトレ

インを運転し、施設内の説明を行っていただきました。

二日間の研修を終えての感想

今回の視察研修で訪れた各地域において仕掛人がしっかりと活動している。そして、自然・歴史・文化をうまく活かしながら、人と人との交流にあふれ、地域住民の地域への熱い思いがあったように思う。また、事務局の気配りのおかげで素晴らしい視察研修になったと思います。大変ご苦労様でした。

「小矢部市まちづくり研究会（第2期生）先進地視察研修報告書」

2班	氏名	多加 友恵
----	----	-------

○郡上八幡市内

郡上八幡は長良川の上流に位置し、奥美濃の山々から流れ出た吉田川、小駄良川など三つの川が合流するところにあります。

郡上八幡市内の町並みはとてもきれいで情緒がありどこか懐かしい感じをさせていたというのが第一印象でした。水の町郡上八幡市というだけあって町並みのいたるところに水が流れていました。

埴生の護国神社のちかくの雰囲気似ていました。

水を使った街づくりが非常に上手くいっているように感じ市民の生活の一部でもありました。

また、鯉が川に流れており休憩所や鯉のえさなど常備してあり子供から大人までちょっとした幸福や癒しを与えているように感じました。

小矢部市もそのような町現在ではあまり多く見られなくなった様式の家屋が多く残るのでこのような財産を残していくべきではないのかと思います。

もちろん市民の協力が必要不可欠になっていきます。小矢部市として市民にも財産の大切さを伝えていく事も大切な使命になるのではないのでしょうか。

○郡上踊り

郡上踊りの歴史は古く起源は約400年前・・・との大変古い踊りである。

郡上八幡市民に非常に愛着のある踊りである。郡上踊りは全部で10曲（かわさき、春駒、三百、ヤツチクげんげんばらばら、古調かわさき、さわぎ、猫の子、郡上甚句、まつさか）ありどれも曲調も踊りも全て異なる。郡上おどり自体は1ヶ月という長い期間行われているという。

徹夜踊りがそのうち4日間だけ行われるという。1ヶ月の間キリコの下で町中で郡上踊りが踊られているという。

小矢部市にも継承していく伝統が残されている、子供の少子化が進む中、町内ごとではなく小学校、中学校単位での継承が必要ではないのかと感じられました。

実際郡上踊りも保存会の方の協力を得て小学校、中学校単位での練習を重ねているという。

○明宝レディース

女性の仲良しグループから始まった明宝レディース、トマトケチャップ作りはもともと、トマトの規格外商品から始まったとのこと、今でも手作りで昔からその方法は変わらないと話す。

品質にもこだわっていると話す。現代の世論に非常にマッチングした商品と思う。

トマトそのものは食用としても食べられるという、

新しい商品開発にはやはり主婦の意見を今でも取り入れていると話す。

○道の駅

今から小矢部市に出来る道の駅を真剣に考えていかなければならないと思う。

真剣に小矢部の道の駅がどのようになっているかが分からないのでまち研としても会議などに出席が必要なのではないかと思う。でないと何のためのまちづくり研究会になってしまうのか分からなくなってしまう。市民の声をもっと聞かなければいけないように感じる。

実際東海北陸道が開通し県外ナンバーの車が増えたと話しておられた。ただ、地元の人にも楽しんでもらう道の駅で無いといけなさと話してもおられた。

○138タワー

小矢部にもクロスランドタワーがあり何か出来ないかと思った。

138タワーは国営という事もあり予算が大分小矢部とは異なるが、やはり地元で愛されるクロスランドタワーで無ければならない事が行ってよく分かった。

四季ごとのイベントが一番集客率があるのはやはりクリスマスイルミネーションだと話す。

クロスランドも夜間はライトアップしているのでせつかくなら市民にも多く知ってもらいたい。

クロスランドのホームページを開いても全く恋人の聖地である事を感じさせられないので非常に残念に思う。身近に出来そうなことなどがあつたので生かしていけたらいいと思いました。

SLももっと上手く活用していかなければいけないなと感じました。

○全体を通して

今回研修を通して全てにこたえたことですが皆さん I ラブ地元の精神でいかに町を良くするかという課題に取り組んでいる事が良く分かりました。

リーダーとなっている方が指導力・行動力があり常に挑戦し続けている事が伺えました。

小矢部市にもこういった活気のある人があつまれば絶対によくなると思います。

また、東海北陸道開通に伴い今まさにチャンスなんだと思いました。

この研修をいかして何かひとつでも小矢部市に残るものが出来たらいいと思います。

◆郡上市役所・郡上八幡博覧館

平成16年(2004)3月1日合併し郡上市が誕生している。

郡上市は7つの地域から成り、それぞれに魅力あふれる自然や有形無形の文化を数多く有する市だと感じました。とりわけ郡上おどりは、400年にわたって歌い踊り続けられてきたもので、大変すばらしい伝統芸能である事を再認識しました。

事務局も市が担当し、しっかりと伝承されている事がよく伝わりました。

また、郡上市八幡町は長良川と吉田川の合流部に位置する水に恵まれ、町のいたるところに湧き水ポイントあり、古くから水の都として栄えてきた地域であることがよくわかった。

八幡博覧館での観光案内人は、ツボをちゃんと心得え、楽しく分かりやすくご説明していただきました。博覧館に訪れると郡上市が短時間で理解できるすばらしい施設だった。

小矢部にはそんな施設がない。。。。。

ゆっくり散策して思ったのは、町並みも情緒があって癒される景観。歩いてしまう。

◆明宝レディース・道の駅 明宝

明宝レディースという女性しか雇用しないのがユニーク。すべての工程が手づくりで、ぬくもりもある明宝ケチャップ。昭和52年、きれいな水と昼夜の寒暖の差をいかし、トマト栽培を始めることになった仲良しグループは、「形が悪かったり、虫にくわれたり、市場に出荷できない規格外のトマトがたくさん出るようになったのをきっかけに『捨てるなんてもったいない何かに利用できないかねえ』と、試行錯誤の末に生まれたというルーツ。

何か身近に手本があると感じた。ちょっとしたきっかけが地域の宝になるんだと。

道の駅については、話を聞いて私たち小矢部の住民が当事者意識をもって取り組まなければ、成功は難しいだろうという結論がでました。小矢部として何を売りにするのか？

◆138タワーパーク

イベントに対する予算がでかい。まず条件がクロスランドタワーと大きく違う点。しかしながら、細かな工夫がなされている。12月にはサンタクロースの衣装で迎えてくれたり、頂上から願いを込めて飛行機を飛ばすような設えがあったり、ロマンチックが隠れている。季節ごとにタワーに登りたくなるような工夫が感じられた。クリスマスイルミネーションは、一度見てみたい。クロスランドタワーに活かせるような点がいくつかありました。是非参考にしたい。

◆クックラひるがの

商工会を中心とした地元住民で検討を重ね、高鷲町内の歴史、文化、自然環境を活かした全体計画をすすめていくスタイルにビジョンが多く含まれていた。

本来の付加価値を見つけ、物と情報のあふれる地域づくりに励んでおられる情熱を学ぶ事ができました。今後も更に、注目していきたい『クックラひるがの』でありました。

是非、小矢部の特産物をもって、イベントを開催したい。

◆ひるがの高原 『牧歌の里』

農業と観光の効果的な連携による、地域資源の有効活用からなる、ひるがの高原『牧歌の里』。ひと言で表現するとすばらしい。できれば緑がきれいな季節に訪れたかった。いろいろな面において、稲葉山に活かさないかと思って話を聞いていました。すべてが自然に囲まれていて、素朴で純粋な時間を過ごせるこの施設は、今の時代には必要な空間であると確信しました。動物がいる、花が咲き乱れている、体験教室が充実している、バーベキューが楽しめる、温泉がある、まさしく1日滞在型の施設であった。ゴールデンウィークには大勢の方が訪れて、渋滞になるのも納得できます。

稲葉山に活かしたい！そんな強い気持ちがこみ上げてきました。

◆ 全体

松井武史主任、北喜樹運転手のおかげで楽しい視察研修となりました。ほぼスケジュール通りで、中身の濃い充実したものでした。小矢部の施設や、条件に置き換えて勉強できる視察場所が多くあったので、学んだ事を最大限に活かしたいと思います。

「小矢部市まちづくり研究会（第2期生）先進地視察研修報告書」

1 班	氏 名	宇川 純矢
-----	-----	-------

1 日目

1. 郡上市役所

郡上市の概要・特徴について、市の中心である旧八幡町の「郡上おどり」・「水辺空間を活かしたまちづくり」の説明を受けました。

「郡上おどり」については、7月中旬～9月の踊り納めまでの来客数が35万人ということもあり、踊りを中心とした観光の町といった印象を受けました。ただし、予算で収入のうち約70%を市の補助金に頼っている現状にあります。また支出をみると、10%が市内外宣伝費に支出されていますが、集客数を考えると安く、宣伝が必要ないほど古くから集客できている祭りであると思いました。しかし、市内には来客数10万人の「白鳥おどり」が存在するが、補助金があるだけで、郡上市としては消極的な印象を受けた。市町村合併により、さまざまな弊害が生じているのではないかと感じました。

「水辺空間を活かしたまちづくり」については、町並み保存会が中心となり建て替え等にも町並み基準を設定し、市民が街並みを守ろうという強い意志を感じることができた。小矢部市もせめて駅前商店街ぐらひは、民間がメルヘンを感じられるような建物になれば、市民意識も上がるのではないのでしょうか？

2. 郡上八幡博覧館

郡上八幡の歴史文化を感じることでできる施設でした。「郡上おどり」実際に見ることができ、やはり観光の目玉はやはり「郡上おどり」であると改めて実感しました。

3. ㈱明宝レディース

立地としては、決して良くない山間の村でも、農産物などを加工し特産品を作ることが、雇用を生み、町の活性化につながると実感できる視察先でした。このあと訪問する「道の駅・明宝」でも、売上の40%が「明宝ケチャップ・ハム」であると説明を受け、小矢部の道の駅も目玉の特産品が不可欠ではないか。

ただし、㈱明宝レディースのケチャップの原材料は、30%を郡上市内・70%を市外に頼っている。理想としては、市内での原材料確保できればよりブランド力につながるのではないかと感じた。

4. 道の駅・明宝

直売所は、農産物が不足する12月から3月まで火曜日・水曜日の週2日休むだけで、営業している。営業することにより、農家が少しでも冬場の農産物を意欲につながったり、また、集客にもつながる。

全体の売上では、やはり「明宝ケチャップ・ハム」がメインで、食堂等は変わった特徴はなかった。

2日目

1. 138タワーパーク

一宮市は、めざすべき姿の1つとして、「若者が暮らしたいと思う街をつくる」といった施策のなかでタワーを活かした取り組みが行われており、「ツイアーチのメリークリスマス」など、恋人たちのデートコースになるようなイベントなど大変参考になった。

クロスランドは「恋人たちの聖地百選」に選ばれましたが、あまりデートコースに使われている印象も薄く、アピール・イベントが今以上に必要ではないでしょうか。

138タワーパークの抱えている課題として、パーク隣の木曾川を挟んですぐ隣の岐阜からの集客が思うように進んでいないとのことでした。小矢部市も県内はもとより、石川へのアピール方法なども検討課題ではないか？

2. クラックひるがお

3セクでは無く、すべて民間で行われていることに、社長の意気込みが感じられました。また、社長が「この場を、起業するための勉強の場にしていただきたい。」とおっしゃいました。若者が起業することにより雇用を生み、安心してこの町に住むことが出来る。逆にいえば、いくら住みよい場所でも、仕事が無ければ住めない。「起業家を育てる街づくり」で街を活性化させたいという思いを感じました。

3. 牧歌の里

稲葉山に重ねて、見学させていただきました。稲葉山も、ミニふれあい動物園などもあり、食事等（バーベQ場）あればもう少し滞在していただける施設になるのではないのでしょうか？

ただし、体験メニューにより滞在型観光地として大成功し、大幅黒字経営されていると思っておりましたが、単年度黒字が過去2回のみと聞いて驚きました。

総括

成功事例では、やはり「良いアイデア」「良い人間」「良い商品」が街を活性化し、さらなる発展のためにメディアをいかにうまく利用していくかがポイントであると思いました。また、基本コンセプトとターゲットが明確でないとうまくいかないということも実感しました。

「小矢部市まちづくり研究会（第2期生）先進地視察研修報告書」

2班 氏名 石畠 幹大

はじめに

11月28日～29日に郡上市を中心に行われた先進地視察の報告書を書くにあたって、私見ではありますが、なるべく小矢部市の今後に活かすことを念頭において、視察場所別に報告したいと思います。

① 郡上市役所

最初に郡上市役所にて市の大まかな説明をして頂いた。郡上市は5年前に7つの町村で合併して出来た市であります。合併という選択をしなかった小矢部市とは状況が違う面（合併を選択したことによるメリット・デメリットがあること）はありますが、根本的には地方が抱える問題を共有していると感じました。それは、財政難に起因する問題（人件費削減の為に発生するサービスの質の低下と活力の低下問題・病院の維持問題など）と市の発展の為に方向性を模索しているという事です。

ただ、郡上市の郡上八幡町は、古い町並みを整理したことと、郡上おどりで観光客を呼べるようになっていきます。小矢部市も交流人口を増やすよう取り組むのであれば、アピールポイントをみつめ直す必要性を感じました。

② 郡上八幡のまちなみ

郡上八幡は水を活かした町並みを計画的に整備して、観光ポイントとしています。小矢部市に置き換えると、やはりアピールすべきはメルヘン建築だと思います。また、郡上おどりの資料館があり、祭りの時期以外にも祭りを感じることが出来ました。小矢部市には非常に多くの祭りが点在しています。これはアピールポイントになると思います。

③ (株) 明宝レディース

ここは農村事業の成功例として有名です。直売所から始まって、加工品の製造、農村レストランの運営の3点セットで運営して、成功している所が多くあるそうです。この様な名産品を作ることが、市の活性化をはかる為にも小矢部市にも求められています。明宝レディースではトマトを捨てているのが勿体無いから、ケチャップを作ったことが成功のきっかけだったそうです。小矢部市でも市にある物を「もったいない」という視点で見直していきたいと思います。

また、明宝ハム・鶏ちゃんの成功例もありますので、名産物の作成には、農協・商工会との連携も大切だと思います。また、今あるものにこだわり過ぎるのではなく、名産物を作るために、新たな特産物を作っていくことも可ではないかと感じました。

④ 道の駅 明宝

郡上市は、合併前から多くの道の駅が有り、7つの道の駅を持つ市です。これから道の駅を作る小矢部市には参考になる点が多く有ります。道の駅の成功条件は立地条件に大きく左右されると感じました。利用者の年齢層・職種・出身地等を考慮して、計画していくことが必要だと感じました。

成功の秘訣は、地元の特産品の充実と、客を呼べる温泉だと伺いました。

⑤ 138タワー

東海北陸道の南北のジャンクションでタワーを持つ、一宮市と小矢部市です。交流への発展性を感じます。両市ともシンボリックなタワーを持っています。ここではタワーの利用で参考になったことを報告します。

138タワーでは利用者のリターン化を目的としたイベントと利用客層に合ったイベントを上手にひらいていると感じました。簡単に出来ることも有りましたので、クロスランドタワーでも取り入れるべきだと感じました。

⑥ クックラひるがの

今回の東海北陸自動車道の全線開通で、成功しているのは氷見と、ひるがのだと思います。ひるがのでは都市計画と連携して開発を進めています。今は、スピード感を優先する為に（株）アーカイブという会社で運営を開始しています。その会社の方の熱意ある話から多くの事を学びました。

ひるがのではサービスエリアとインターチェンジを誘致することで観光の相乗効果を目指しているそうです。その両方を既に持っている小矢部市はそれを活かしていないと思います。近隣の市と連携して観光客の立場にたって、交流人口を増やす計画をたてなければいけないと感じました。また、東海北陸自動車全線の市で線全体が活性化していく事の必要性も教えていただきました。実際に此处では、氷見直送の海鮮丼が販売されていました。

最後にこの会社の成功は起業家の育成にかかっていると聞いていたのが、印象的でした。今後の小矢部市を考えると、人材育成も大きな要因であると気付かせて頂きました。

⑦ ひるがの高原 「牧歌の里」

ここでは、稲葉山牧場に活かせることは何かないかと、視察してきました。稲葉山を小矢部市の観光資源と捉えると、参考になる点はあったと思います。牧歌の里では集客を計る為に、多くの体験教室を開催していました。マーケティング調査や人気教室の分析を行って、客層にあわせたプランニング、営業をしているそうです。また、交通プランもあわせてしていると聞きました。

最後に

この視察研修全体を通じてですが、情報を発信していくことの重要性を感じました。それは、インターネット・ブログで話題を作ることと、観光マップ・イベントカレンダーで情報を提供することに関して、小矢部市は遅れているように感じます。

また、2日間の食事を通じて、普段食べている食事の美味しさを再確認しました。これは是非活かすべきだと思います。地元弁当の開発や、農協と協力して名産物を作っていくことが面白いと思います。

今回の研修では多くの気づきを頂きました。その気づきを活かして今後、所属団体やまち研で発言していきたいと思います。